

アジアの自動車の色彩動向

Asian Automotive Color Trends and Color Popularity



CD研究所
所長
中畑顕雅
Akimasa
Nakahata

Summary

Due to the rapid motorization and assisted by the technical collaborations with Japanese and Western car manufacturers the automotive productions have been increasing in the Asian countries such as Thailand, Malaysia, Korea, Taiwan, India and China. While there are no particular differences in the basic technologies of the body exterior coatings, there seem to exist some differences in the tastes for finishing body colors from country to country.

Unlike Europe and North America there have been little information or statistics on the automotive color trend and popularity in the Asian market. With this background a survey was conducted to investigate the color trends in some Asian countries.

In the current survey, it was observed that the general tastes were in favor of conservative and luxurious colors and that silver metallic and neutral colors became the two popular colors in those Asian countries.

要 旨

タイ、マレーシア、韓国、台湾、インド、中国等のアジア諸国における自動車の生産は、日本や欧米の自動車メーカーとの技術提携により、各国の急速なモータリゼーションの進展とともに急速に増加している。その外板色に適用される塗料・塗装技術には基本的な違いはないにも関わらず、その色彩動向は国によって異なっている。

しかし、アジア諸国の自動車外板色の色彩動向に関しては信頼できる統計的なデータが得られていないのが現状である。そこで我々はアジア各国の乗用車の色彩動向を把握することを目的として、市場調査を実施した。

その結果、アジア諸国の自動車外板色は全体として保守的で高級感嗜好が強いものの、いずれの国においてもシルバーメタリックおよびニュートラルカラーの流行が認められた。

1. はじめに

タイ、マレーシア、韓国、台湾、インド、中国等のアジア諸国における自動車の生産は、日本や欧米の自動車メーカーとの技術提携により、各国の急速なモータリゼーションの進展とともに急速に増加している。2001年の世界の乗用車およびLCV（ライトコマーシャルビークル：小型多目的車）は、およそ5300万台であるが、その約31%の1600万台あまりがアジア・オセアニア圏で生産されている。アジア・オセアニア圏で生産される車のうち、約55%は日本で生産されているが、残りの約45%は韓国、中国、インド、タイ、マレーシア、台湾等で生産されている。その多くは日本や欧米の自動車メーカーとの技術提携によるものであり、台湾や東南アジア諸国では多くの日本車を見ることができる。

一方、自動車の外板塗色に着目すると、北米、欧州、日本に関してはその色彩分布の統計的なデータが塗料メーカーや色材メーカーによって継続的に調査されカラーポピュリティとして報告されており、自動車塗色の流行や色彩動向

の変化が把握されている。ここ数年は、北米、欧州、日本ともにシルバーメタリックの増加とともに、ホワイト、シルバー、グレー、ブラック等のニュートラルカラー（無彩色）の比率が高まっていることが知られている。

しかしながら、アジア諸国については自動車色彩の統計的な情報は少なく、その色彩動向は国毎に異なるとはされているものの、信頼できるデータに基づく比較はなされていない。そこで、著者らはこれらアジア諸国の自動車の色彩動向を把握する目的で、主にモータリゼーションの進展の著しい都市部を中心に市場調査を実施し、歴史と文化的な基盤の異なる各国の自動車外板色の分布と傾向について考察した。

2. 調査方法

2.1 自動車色彩分布データの収集

アジア各国における自動車色彩の市場調査は2000年から2002年に渡り、各国の首都または大都市とその近郊の交通量の多い道路の周辺数カ所で、バス、タクシー、トラック等の商用車を除く乗用車を1000台以上無作為に選び、車のカテゴリと外板色の色彩カテゴリを目視観察によってカウントするという方法で実施した。表1に調査国と調査地を示す。

表1 色彩動向を調査した国と地域

調査国	調査地	調査年月
タイ	バンコク市内 バンコク市郊外	2001年8月
マレーシア	クアラルンプール	2001年8月
インド	デリー ムンバイ プネ バンガロール	2001年7月
台湾	台北	2001年11月
中国	北京 大連 上海 広州	2001年7月
韓国	安養市	2002年5月
日本（比較調査）	東京	2001年8月

車のカテゴリは、各国の特徴によって適宜分類した。例えばタイではセダンタイプの乗用車とピックアップが非常に多いが、コンパクトカーは殆ど認められないので、乗用車（セダン）、SUV、1トンピックアップの3カテゴリに分類した。また色彩カテゴリは、ホワイト、シルバー、グレー、ブラック、レッド、ブルー、グリーン、ベージュ～ゴールド、ブラウン、イエロー、オレンジ、パープルを基本色としてカラーカテゴリに分類した。

これらの集計データから、各カラーカテゴリの塗色比率を求めカラーポピュラリティとし、グラフ化した。

2.2 自動車色彩分布のビジュアライズ

現在日本では一人当たりの車の普及率が50%を超え、ライフスタイルに合わせて車を選択するようになり、RVやSUVが増加している。アジア諸国においても近年RVやSUVが増加する傾向が認められるものの、国によって車型のカテゴリ分布は大きく異なっている。乗用車の色彩動向をデザイン的な視点で考察するには、単に色彩の分布だけではなく、どのような車にどのような色が塗装されているかという視点を欠かすことはできない。

そこで、市場調査においては単にその数を数えるだけではなく、ランダムに500台以上の車をデジタルカメラを用いて撮影し、車のカテゴリ別のカラーポピュラリティに従って1台=1%の比率となるように写真を配置することによりビジュアライズした。

アジア諸国の色彩動向調査の比較調査として実施した日本での調査結果とその解析事例を図1に示す。

3. 調査結果と各国の色彩動向

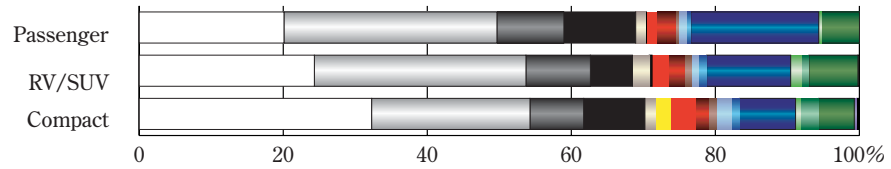
3.1 日本

日本の自動車外板色のポピュラリティは生産統計データによるとここ数年は有彩色が減少して、ホワイトパールの増加に伴い、ホワイトと欧米同様シルバーメタリックが増加基調にあり、ニュートラルカラーが80%を越えている。上記に述べた方法によって市場で調査した結果は、図1に示したように、白、シルバー、グレー、黒の無彩色で約70%が占められている。生産統計データよりも比率が少ないのは市場調査データには現在よりも有彩色が多かった経年車が含まれるためと推定される。有彩色中ではブルー系の濃彩色が好まれていることが判る。また、イエローは主としてスポーツスペシャルティにはほぼ限定して使用され、さらに高彩度の有彩色は輸入車に多く認められるという特徴も見て取ることができる。

調査データ

Color	Category			total
	Passenger	Compact	RV/SUV	
white	242	46	27	315
silver	301	81	53	435
grey	162	9	4	175
black	59	8	2	69
beige/gold	27	6	12	45
yellow	29	10	0	39
orange	0	0	0	0
brown	26	2	0	28
red (s)	76	43	0	119
red (m.p)	62	19	37	118
blue	192	76	43	311
green	153	34	44	231
purple	7	10	0	17
Total	1336	344	222	1902

車のカテゴリー別のカラーポピュラリティ



車のカテゴリーと色彩分布のビジュアライズ



図1 自動車の色彩動向の調査と解析事例（日本、東京都内）

3.2 台湾

台北市内の自動車カラーの印象は図2に示されるように、イエローの多さに圧倒されるが、このイエローの殆どはタクシーである。

乗用車について調査した結果を表2および図3に示す。台湾の乗用車の殆どは現地生産されている日本車であり、海外メーカーの車はフォード(福特汽車)が多い。日本と異なり、車型は殆どがセダンで占められる。ニュートラルカラーが約65%を占めると言う点においては日本とよく似ているが、日本に比べてブラックが非常に多く、約20%を占める。有彩色ではブルーグリーン系の濃色パールカラーが非常に好まれ、グリーン全体で18%を超えるが、ブルー系色は殆ど認められないという点が特徴的



図2 台湾 台北市の市街

である。有彩色中グリーンに次いで多い色がレッドであり、ソリッドカラーおよびレッド

マイカを合わせると約11%の比率を占める。レッドソリッドと、日本と同様にスポーツカーにほぼ限定されるイエローを除いて、高彩度・高明度の有彩色は少なく、またブラックが大型車に好んで用いられる傾向から、そのカラー嗜好は保守的であり、ラグジュアリー傾向であると考察することができる。

表2 台湾における乗用車の色彩分布比率

調査地		台北市	
調査台数		1965台	
カラーカテゴリー		塗色比率(%)	
ホワイト		17.2	ニュートラル 64.6%
シルバー		22.8	
グレー		6.1	
ブラック		18.5	
ベージュ		1.6	有彩色 35.4%
ゴールド		0.0	
イエロー		0.8	
レッド	solid	3.9	
	metallic	7.5	
ブラウン		0.2	
ブルー	light	0.4	
	medium	1.2	
	dark	2.4	
グリーン	light	0.2	
	medium	2.8	
	dark	14.4	
パイオレット		0.0	
オレンジ		0.0	
合計		100.0	



Color Popularity

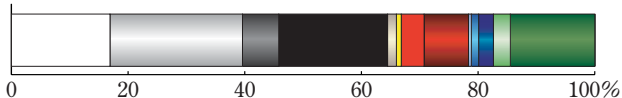


図3 台湾の自動車外板色の色彩動向

3.3 韓国

IMF危機によって1998年に自動車生産台数が激減した韓国はその後順調に回復し、現在生産台数は年間300万台を超す勢いである。韓国では、他のアジア諸国と異なり日本車が殆ど見られず、輸入車も少ない。車型的にはセダンが圧倒的に多いが、ここ数年はSUV車の生産台数が急増している。図4はソウル近郊の安養市の市街の朝の通勤時間帯の様子であり、ホワイトが多いという印象を受ける。

韓国の乗用車のポピュラリティは表3および図5に示すがニュートラルカラーが乗用車全体として約60%を、そのうちセダン系では約65%を占める。世界的なシルバーの流行下において、韓国ではホワイトの比率がシルバーを上回るという特徴的な傾向が認められる。特にセダン系ではホワイトおよびホワイトパールが好まれるが、SUV系ではシルバーの比率がホワイトと同じくらいとなっている。グレーは比較的少ないが、トラックの比率は乗用車、SUVともに高く10%を上回っている。



図4 韓国安養市の市街（2002年5月、午前7-9時）

表3 韓国における乗用車の色彩分布比率

調査地	安養市						タクシー	トラック
車型	Sedan	RV/SUV	Compact	One Box	合計		194	106
調査台数	924	248	138	101	1441			
	塗色比率 (%)						塗色比率 (%)	
ホワイト	33.0	29.2	19.7	7.9	29.4	ニュートラル 60.7%	43.9	38.7
シルバー	16.6	25.4	7.3	19.8	17.4		27.8	0.0
グレー	4.8	2.0	0.7	5.9	4.0		8.2	0.0
ブラック	10.7	15.3	3.6	0.0	10.1		2.1	0.0
ベージュ	2.7	12.1	0.0	5.9	4.3		13.9	1.9
イエロー	0.0	0.0	2.2	5.0	0.6		3.1	0.9
ゴールド	1.7	1.2	12.4	0.0	2.6		0.0	0.0
オレンジ	0.0	0.4	0.7	0.0	0.1		0.0	0.0
ブラウン	1.0	2.0	1.4	5.9	1.6		0.0	0.0
レッド (solid)	0.8	0.0	21.1	0.0	2.6		0.0	0.0
レッド (metallic)	6.2	2.4	6.5	21.8	6.7	0.0	0.0	
ブルー (light)	0.5	0.8	1.4	0.0	0.6	1.0	11.3	
ブルー (medium)	0.4	0.0	7.2	3.0	1.2	0.0	14.2	
ブルー (dark)	7.0	2.0	7.2	7.9	6.2	0.0	32.1	
ターコイズ	1.2	0.8	1.4	5.0	1.4	0.0	0.0	
グリーン (light)	0.3	0.0	2.9	1.0	0.6	0.0	0.0	
グリーン (medium)	2.5	2.8	2.9	8.9	3.0	0.0	0.0	
グリーン (dark)	8.9	2.8	0.7	1.0	6.4	0.0	0.9	
パープル	0.8	0.4	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	
バイオレット	0.9	0.4	0.7	1.0	0.6	0.0	0.0	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0
						有彩色 39.3%		

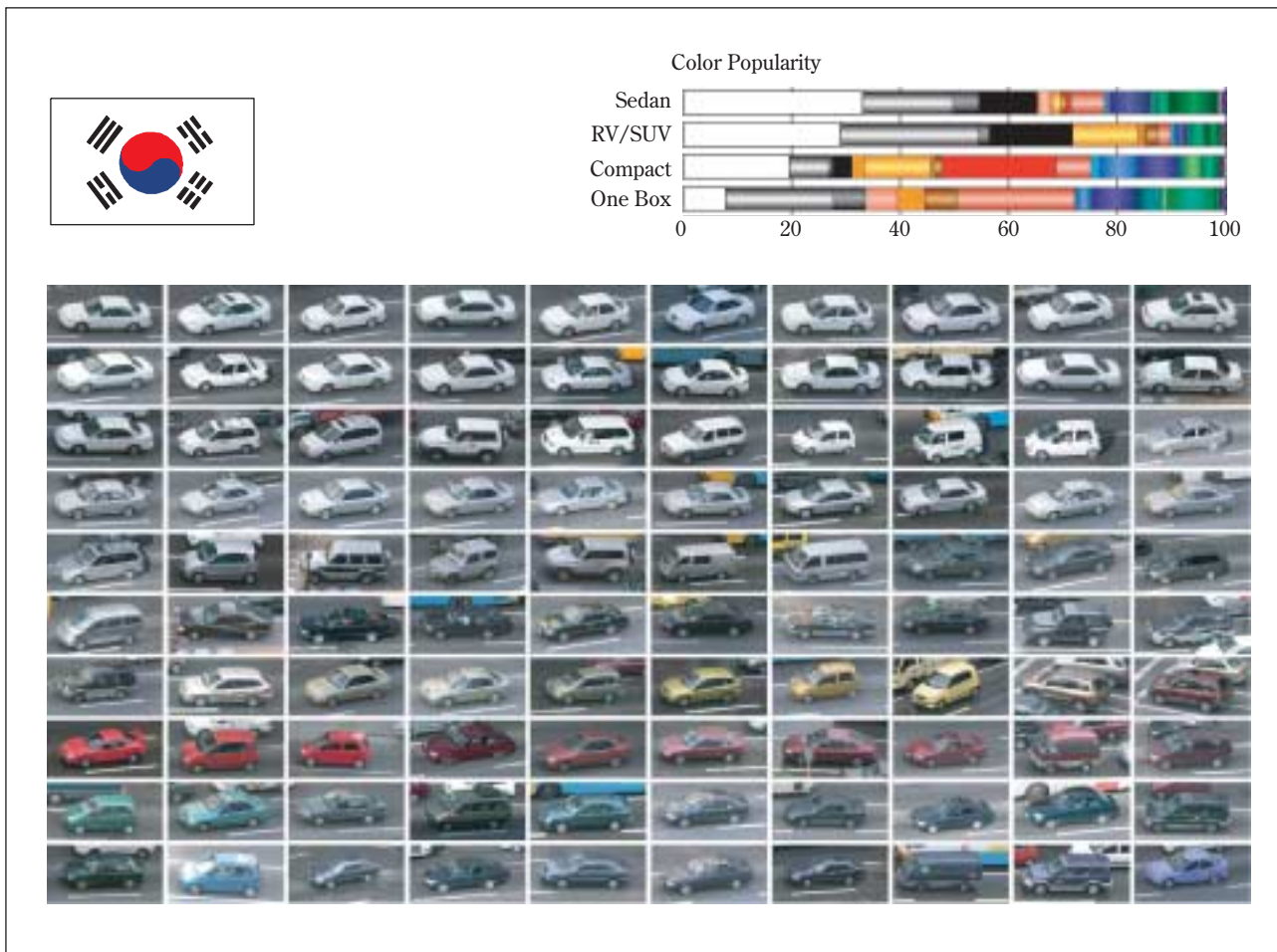


図5 韓国の自動車外板色の色彩動向

セダンにおける有彩色は、比較的彩度が高く深みのある濃色グリーンか、殆ど黒に近い濃色のブルーが多い。

ベージュ～ブラウン色相はSUV系で約10%のポピュラリティを有し、セダン系に比べてSUV系で好まれる色に差が認められるのも韓国の特徴である。

セダン系乗用車が、上記のように比較的保守的でリッチ傾向の塗色が好まれるのに対して、1000ccクラスのコンパ

クトカーでは、非常にカジュアルな高彩度色が好んで用いられている(図6)。

また、タクシーカラーはシルバー、グレー、ベージュ系が多く高彩度の目立つ色が少ない。一方トラックは圧倒的にブルー系のソリッドカラーが多いことも韓国の自動車色彩動向の特徴となっている。



図6 高彩度色の多い韓国の小型車

3.4 タイ

タイの自動車色彩の印象は、図7に示すように、一見すると非常に高彩度の色彩が多い。しかし、これは高彩度色の2トーンカラーが設定されているタクシーの数が



図7 タイ バンコク市の市街

表4 タイにおける自動車の色彩分布比率

調査場所	バンコク市内			バンコク郊外		
	乗用車	ピックアップ	RV/SUV	乗用車	ピックアップ	RV/SUV
調査台数	1346	499	209	325	552	53
	塗色比率 (%)			塗色比率 (%)		
ホワイト	7.0	21.8	19.6	6.2	20.4	30.1
シルバー	neutral	21.4	18.0	24.3	14.9	18.9
	blueish	4.2	5.8	14.4	4.3	5.7
グレー	11.0	7.2	3.8	6.2	3.8	5.7
ブラック	3.7	3.2	6.2	6.5	2.4	7.5
ベージュ	11.4	10.2	6.7	12.9	6.5	5.7
ゴールド	7.3	2.0	2.9	5.2	3.3	7.5
イエロー	0.4	0.0	0.0	1.2	0.4	0.0
レッド	solid	2.5	1.6	1.4	7.1	0.0
	metallic	6.7	7.0	2.4	6.5	11.6
ブラウン	0.1	0.2	1.0	0.6	0.7	0.0
ブルー	light	2.1	0.6	2.4	0.6	0.0
	medium	2.6	6.4	0.5	3.7	1.8
	dark	9.7	1.6	4.8	7.7	13.4
グリーン	light	0.4	1.2	1.4	0.6	0.5
	medium	2.0	2.6	0.0	0.9	2.7
	dark	6.6	9.4	7.2	5.2	12.3
パイオレット	0.8	1.2	1.0	0.3	0.0	0.0
オレンジ	0.1	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

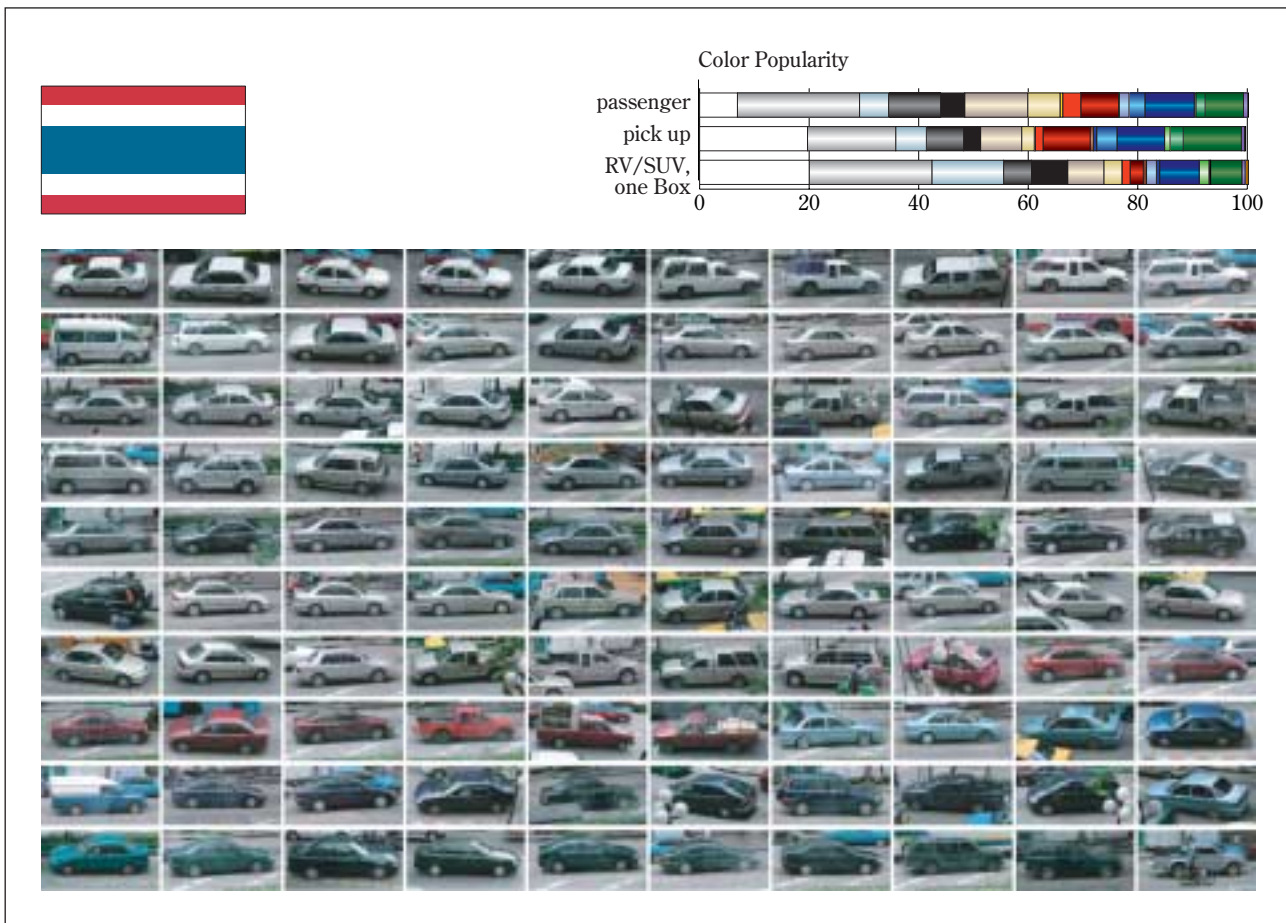


図8 タイ・バンコク市内の自動車外板色の色彩動向

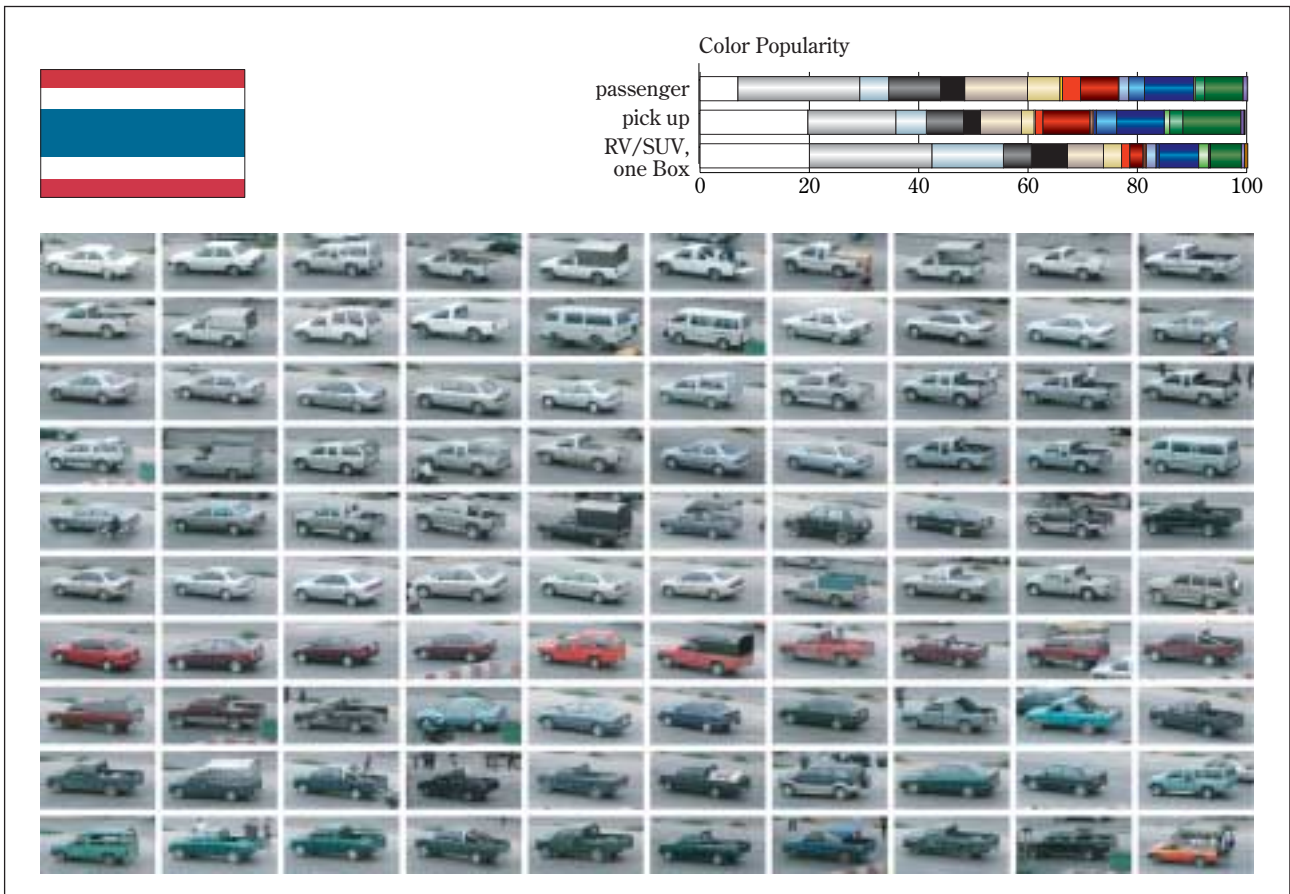


図9 タイ・バンコク市郊外における自動車外板色の色彩動向

非常に多いこと、バスなどの公共交通が高彩度色で数も多いことによるものである。

タイでは、車種として、セダンの他に、税制的に優遇されている1トンピックアップが非常に多いことが特徴であり、そのピックアップも荷台を改造してSUVのような使い方により乗用車として使われているケースが多い。そこで、タイでの調査はピックアップをひとつの車種カテゴリーとしてとりあげた。その調査結果を表4、図8、図9に示す。その結果は、タクシーやバスを除く乗用車中、バンコク市内中心部で約25%、郊外では約60%がピックアップであった。

セダンではシルバーメタリックとベージュメタリックが最も好まれる塗色である。これにホワイト、グレー、ブラック等の他のニュートラルカラーを加えると約65%を占める。そのシルバーメタリックカテゴリーでクール系のカラードシルバー、ベージュメタリックカテゴリーでややゴールド傾向の塗色が2001年から増加の傾向にあり、淡彩メタリックのカラーバリエーションが増える傾向にある事は他国に見られぬタイの自動車色彩の特徴である。

有彩色はレッド、ブルー、グリーンともにリッチなイメージの深みのある濃彩色が好まれている。

一方、ピックアップは白や濃色ソリッドカラーが多かったが、近年その色彩傾向は非常にセダンの色彩傾向に近似して

来ており、シルバーメタリックやベージュメタリックが支配的な塗色となってきている。

3.5 マレーシア

高速道路がよく発達し、乗用車の普及率も高いマレーシアの市街の印象は、隣国タイと大きく異なる(図10)。車種は国民車としての位置を獲得しているプロトン(セダン系乗用車を主に生産)、ペロデュー(コンパクトカーを主に生産)の車が多いことから、セダンと小型車が多い。タクシーやバスの数が少ないので、一見したところタイほどカラフルな印象は感じられないが、乗用車の塗色比率に占めるニュートラルカラーの比率は50%程度と比較的低く有彩色の比率が高い(表5、図11)。

ホワイト、シルバー、グレー、ブラックで構成されるニュートラルカラーにおいて、ブラックが比較的少ない割には、グレーの比率が非

常に多く、10%を超えるのがマレーシアの特徴である。



図10 マレーシア クアラルンプールの市街

有彩色はレッド、グリーン、ブルーがほぼ同比率であり、ブルーおよびグリーンにおいて濃彩色だけではなく、ライトカラーやミッドトーンの色が認められる。このように比較的彩度の高

いライトカラーが一定の比率を占めているという点は、台湾、韓国、タイなどと異なるマレーシアの特徴である。

調査地 クアラルンプール

表5 マレーシアにおける自動車の色彩分布比率

車の種類	セダン	コンパクト	RV/SUV	合計		
調査台数	1159	261	147	1567		
塗色比率(%)						
ホワイト	14.3	15.7	12.9	14.4	ニュートラル 50.4%	
シルバー	neutral	11.3	26.8	23.8		15.1
	yellowish	4.9	0.0	0.0		3.6
	blueish	4.9	0.0	0.0		3.6
グレー	12.5	1.5	0.7	9.6		有彩色 49.6%
ブラック	4.7	2.3	1.4	4.0		
ベージュ	4.7	1.9	4.1	4.1		
イエロー	0.8	1.9	0.0	0.9		
レッド	solid	5.9	11.1	3.4	6.5	
	metallic	6.0	5.0	15.6	6.7	
ブラウン	2.1	0.8	0.0	1.7		
ブルー	light	4.1	5.7	0.0	4.0	
	medium	4.7	5.0	0.0	4.3	
	dark	6.0	9.6	18.4	7.7	
グリーン	light	2.8	1.5	0.0	2.0	
	medium	2.7	0.0	0.0	2.4	
	dark	6.9	7.7	19.0	8.2	
バイオレット	0.6	2.7	0.7	1.0		
オレンジ	0.1	0.8	0.0	0.2		
合計	100.0	100.0	100.0	100.0		

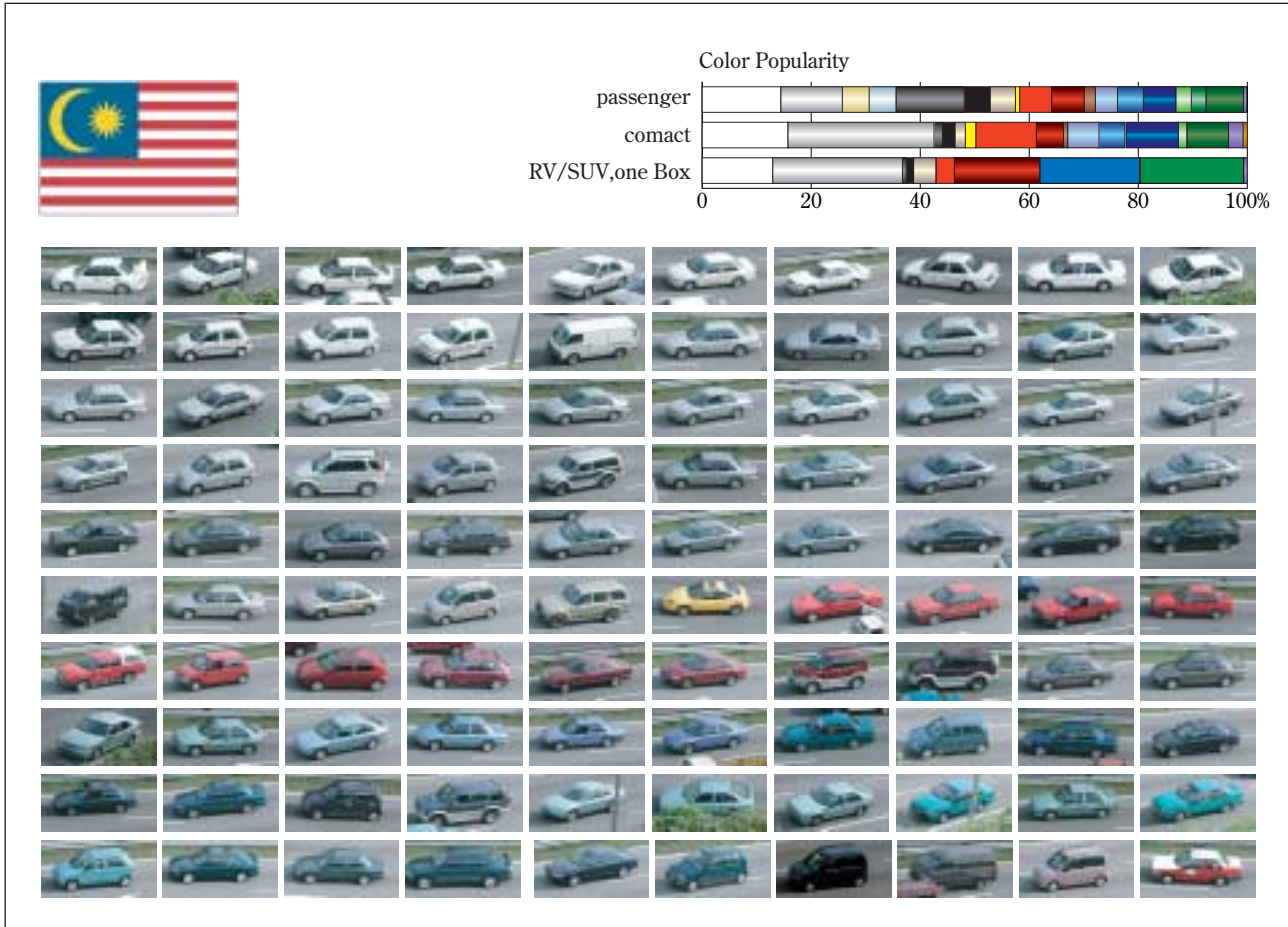


図11 マレーシアの自動車外板色の色彩動向

3.6 インド

人口の多いインドでは乗用車普及率は非常に低く、一人あたり1%に満たないが、その多くは大都市に集中していることから車の多いデリーやムンバイなどの大都市では交通渋滞も日常的に発生している。

図12,13はデリーおよびムンバイの市街の交通の様子である。



図12 インド デリー市街



図13 インド ムンバイ市街

インドの自動車は小型車が多いが、1300cc以上のセダンはこの国ではラグジャリークラスとして位置づけられるので、それ以下のコンパクトカーやSUV車と区別して調査した。また色彩動向調査は、ムンバイ、デリー、プネ、バンガロールの4都市で実施した。その結果を表6に示す。

ニュートラルカラーの比率は、全体としては約60%程度であり、ホワイトおよびシルバーが多く、グレーやブラックは比較的少ない。ラグジャリークラスの乗用車では、ホワイトよりはシルバーメタリックが多く、SUVやコンパクトカーではホワイトの方が多くなっている。ニュートラルカラーの領域では、近年コンパクトカーを中心にグレーの人気の高まってきている。

有彩色では、ブルー系の塗色の比率が多く、グリーンが比較的少ない。また、全体に濃

表6 インドにおける乗用車の色彩分布比率

調査都市	乗用車					全体	
	ムンバイ	デリー	プネ	バンガロール	調査台数		
調査台数	804	597	131	109	1641		
	塗色比率(%)					塗色比率	
ホワイト	18.9	14.6	32.8	11.9	18.0	ニュートラル 53.9%	
シルバー	24.2	24.0	10.7	22.0	22.9		
グレー	5.8	10.4	6.9	11.9	8.0		
ブラック	6.0	4.4	4.6	1.8	5.0	有彩色 46.1%	
レッド	9.1	8.4	8.4	10.1	8.8		
ブラウン	2.6	3.0	3.8	0.0	2.7		
ゴールド・ベージュ	8.7	12.1	9.9	29.4	11.4		
イエロー	0.2	0.0	0.0	3.7	0.4		
グリーン	6.0	6.4	4.6	4.6	5.9		
ブルー	18.3	16.4	18.3	4.6	16.7		
パープル	0.2	0.3	0.0	0.0	0.2		
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

調査都市	RV/SUV					全体	
	ムンバイ	デリー	プネ	バンガロール	調査台数		
調査台数	112	137	118	131	498		
	塗色比率(%)					塗色比率	
ホワイト	46.3	36.5	67.9	43.4	48.1	ニュートラル 75.9%	
シルバー	22.3	18.2	8.5	22.9	18.1		
グレー	3.6	5.8	4.2	13.0	6.8		
ブラック	1.8	5.1	0.0	4.6	3.0	有彩色 24.1%	
レッド	13.4	9.5	8.5	8.4	9.8		
ブラウン	0.9	1.5	0.0	0.0	0.6		
ゴールド・ベージュ	2.7	2.2	0.8	3.1	2.2		
イエロー	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
グリーン	3.6	9.5	5.1	0.0	4.6		
ブルー	5.4	11.7	4.2	4.6	6.6		
パープル	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2		
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

調査都市	Compact					全体	
	ムンバイ	デリー	プネ	バンガロール	調査台数		
調査台数	496	594	421	631	2142		
	塗色比率(%)					塗色比率	
ホワイト	24.0	37.8	47.7	26.5	33.3	ニュートラル 55.5%	
シルバー	12.7	18.2	4.8	24.0	16.1		
グレー	4.4	3.9	4.0	8.9	5.5		
ブラック	0.6	0.7	0.0	1.3	0.7	有彩色 44.5%	
レッド	11.7	10.6	10.0	9.8	10.5		
ブラウン	2.8	0.7	0.0	0.0	0.8		
ゴールド・ベージュ	11.5	7.2	10.5	16.0	11.4		
イエロー	1.6	0.7	0.7	0.8	0.9		
グリーン	7.7	6.9	5.0	5.4	6.3		
ブルー	21.6	11.6	16.6	7.3	13.6		
パープル	1.4	1.7	0.7	0.0	0.9		
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

調査都市	全車種の合計					全体	
	ムンバイ	デリー	プネ	バンガロール	調査台数		
調査台数	1412	1328	670	871	4281		
	塗色比率(%)					塗色比率	
ホワイト	22.9	27.2	48.4	27.3	29.2	ニュートラル 57.2%	
シルバー	20.0	20.9	6.6	23.7	18.9		
グレー	5.2	7.0	4.6	9.9	6.6		
ブラック	3.8	2.8	0.9	1.8	2.6	有彩色 42.8%	
レッド	10.3	9.5	9.4	9.6	9.8		
ブラウン	2.5	1.8	0.7	0.0	1.5		
ゴールド・ベージュ	9.2	8.9	8.7	15.7	10.3		
イエロー	0.7	0.3	0.4	1.0	0.6		
グリーン	6.4	6.9	4.9	4.5	5.9		
ブルー	18.4	13.8	14.8	6.5	14.0		
パープル	0.6	0.9	0.6	0.0	0.6		
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

彩色が少なく、中彩色が多く認められる傾向にある。またゴールド／ベージュが好まれ、乗用車、コンパクト共に約10%の比率を占める。

都市間比較では、車種分布において差が認められ、ムン

バイでは乗用車が多く、デリー、プネ、バンガロールではコンパクトカーの比率が多い。しかし色彩分布には顕著な地域差は認められないようである。

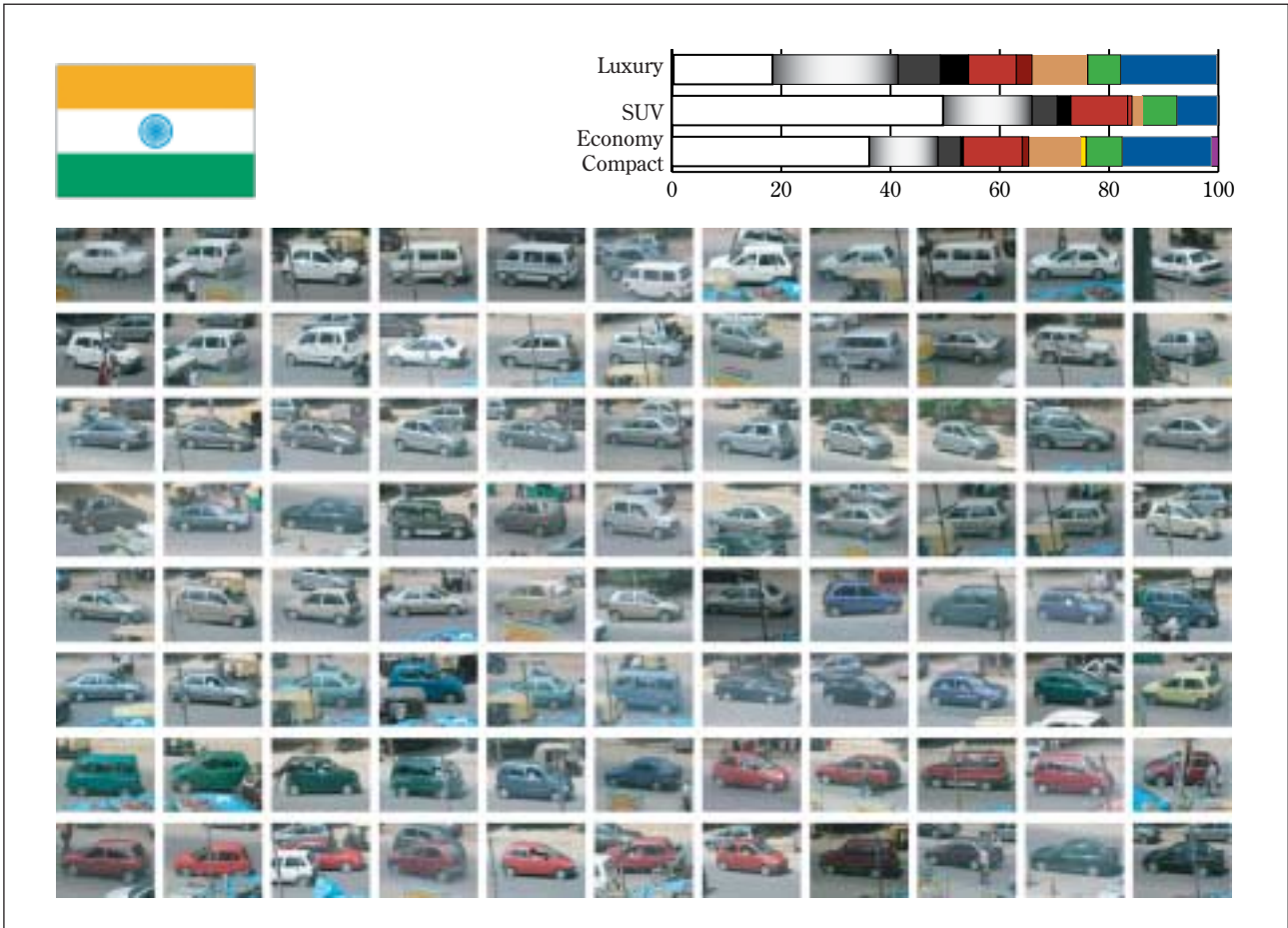


図14 インド（デリー）の自動車外板色の色彩動向

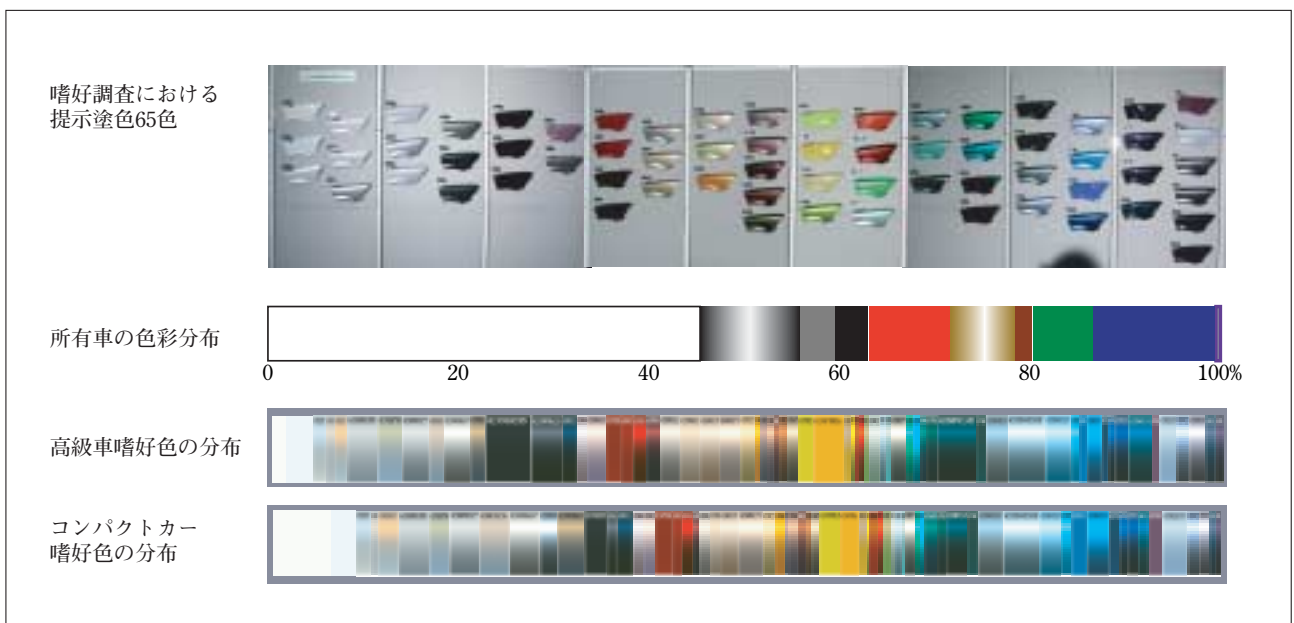


図15 インドにおける乗用車嗜好色の調査結果

3.7 インドにおける自動車嗜好色の調査

2002年1月に、デリーにおいてインドのモーターショーであるAuto Expo 2002が開催された。

著者らは、この機会に、モーターショーへの来場者をターゲットにして自動車外板色の嗜好調査を実施した。その方法は次のようにして行った。モーターショー会場のGoodlas Nerolac Paints社の展示ブースにソリッドカラー、メタリックカラー、パールカラー等からなる65色の塗色パネルを展示した(図15)。ラグジュアリークラス、およびコンパクトクラスの乗用車に好ましい塗色をそれぞれ3色選んでもらうというアンケート方式を実施した。また、アンケート回答者の現在の保有色も聞き取り考察の参考にした。アンケート回答者は約600人であった。

嗜好調査結果を図15に示す。この結果は、概ね市場の色彩動向と対応する傾向を示しているがシルバーメタリック、およびカラードシルバー系塗色の人気が高く、有彩色ではベージュ～ブラウンとブルー系塗色の嗜好が強く認められた。

またコンパクトカーのみならず、ラグジュアリークラスにおいても濃彩色に対する嗜好が非常に低く、明るい色が好まれる傾向を示した。

3.8 中国

中国の自動車の色彩動向は地域、都市において非常に異なる。共通しているのは、タクシー色に用いられるレッドで、北京においても、重慶においても、あるいは広州においても市街にはタクシー色のレッドがあふれているように見える。また、マイクロバスが多く、その殆どは白である。図16には北京の王府井付近の市街の様子を示す。

これらのタクシーやマイクロバスを除く乗用車の色彩動向を北京、大連、上海について図17に示した。北京の乗用車は大型車が多く、その色彩は圧倒的に黒が多い。シルバーはわずかに10%程度である。しかし上海ではシルバーやブルーメタリックもかなりの比率を占めている。

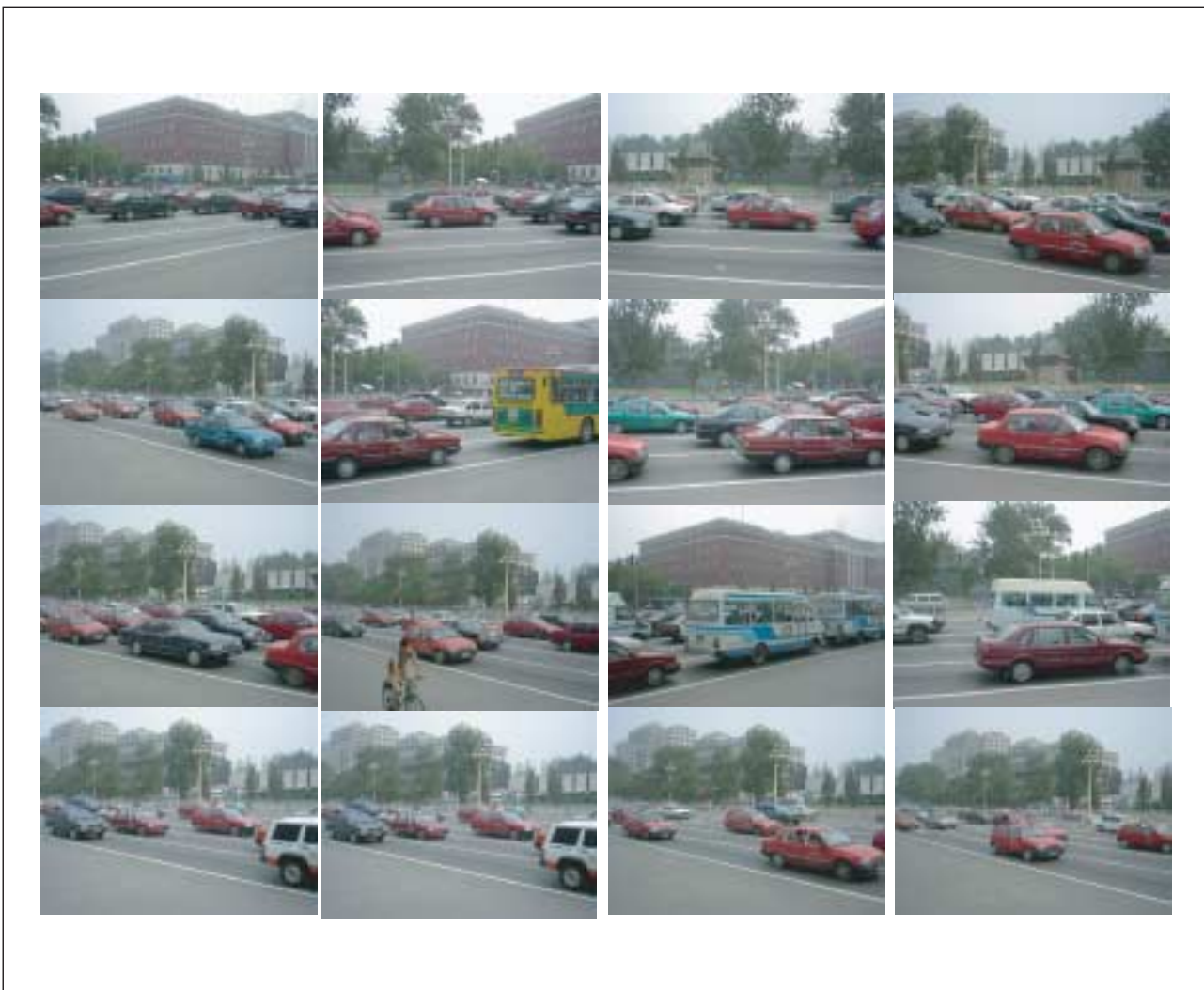
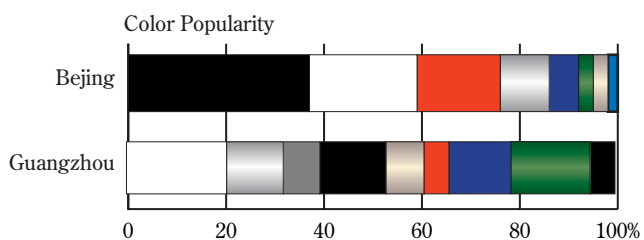


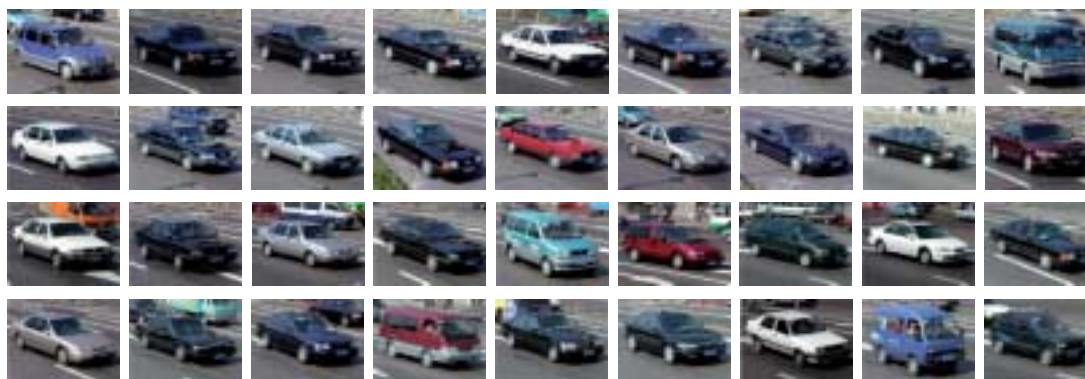
図16 中国（北京、王府井付近）の市街



北京



上海



大連

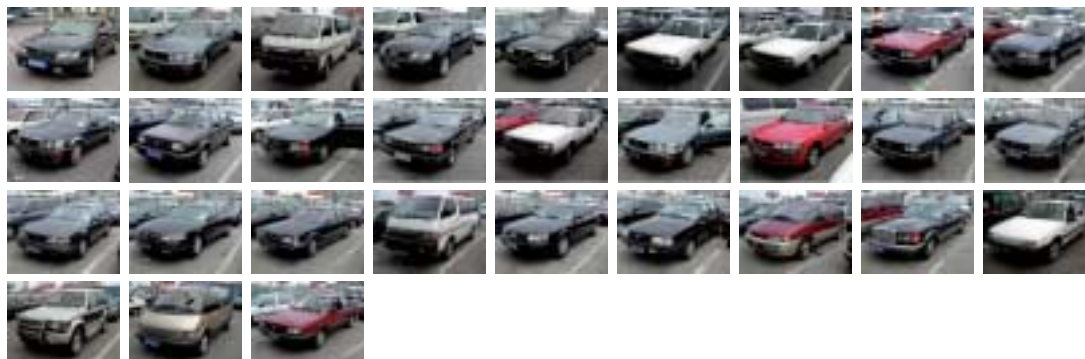


図17 中国の色彩動向（北京、上海、大連）

4. アジア諸国の色彩動向の比較と特徴のまとめ

図18に調査結果によるアジア諸国の自動車カラーのカラーポピュラリティの比較を示す。

白、シルバー、グレー、ブラックからなるニュートラルカラー比率は、日本、韓国が高く、マレーシアで最も低いが、セダンカテゴリーのパセングレードカーではいずれも50%を超えている。シルバーメタリックは中国を除くいずれの国でも大きな比率を占める。韓国、台湾、中国ではホワイトと共にブラックが大きな比率を占めているが、インド、タイ、マレーシアではブラックの比率は少ないのが特徴である。

有彩色における各国の特徴はベージュないしゴールドのポピュラリティに現れ、インドおよびタイではシルバーメタリックと共に大きな比率を占めるが、韓国、台湾、マレーシアにおける比率はそれほど大きくはない。

しかし、アジア各国の色彩動向の特徴は、全体に高彩度色が少なく保守的な色彩傾向が認められることである。これは、車型としてセダンが支配的で、RV/SUV系は増加傾

向にあるとはいえ、日本や欧米に比較すればまだ少ないことなどから、乗用車を保有することがステータスシンボルであるということが推定される。そのために、色彩嗜好は、保守的で高級感を求める傾向が強いものと考えられる。

5. おわりに

今後アジア諸国のモータリゼーションはさらに進展すると考えられ、経済成長に伴う乗用車の普及率の上昇や、週休二日制の導入などの社会変化などに伴って、これらの国の車を取り巻くライフスタイルも大きく変動していくものと考えられる。

また、IT時代の今日、カラートレンド等の情報は瞬時に世界に伝わることなどから、アジア諸国の自動車の車型分布や色彩分布も大きく変動していくものと考えられる。すでに、アジアの殆どの国でシルバーメタリックは大きな流行となっており、メタリックやパールカラーが支配的になってきているが、それでも各国の特徴的な嗜好色も有している。今後もこれらの諸国の自動車色彩の変化を継続して調査し解析していきたい。

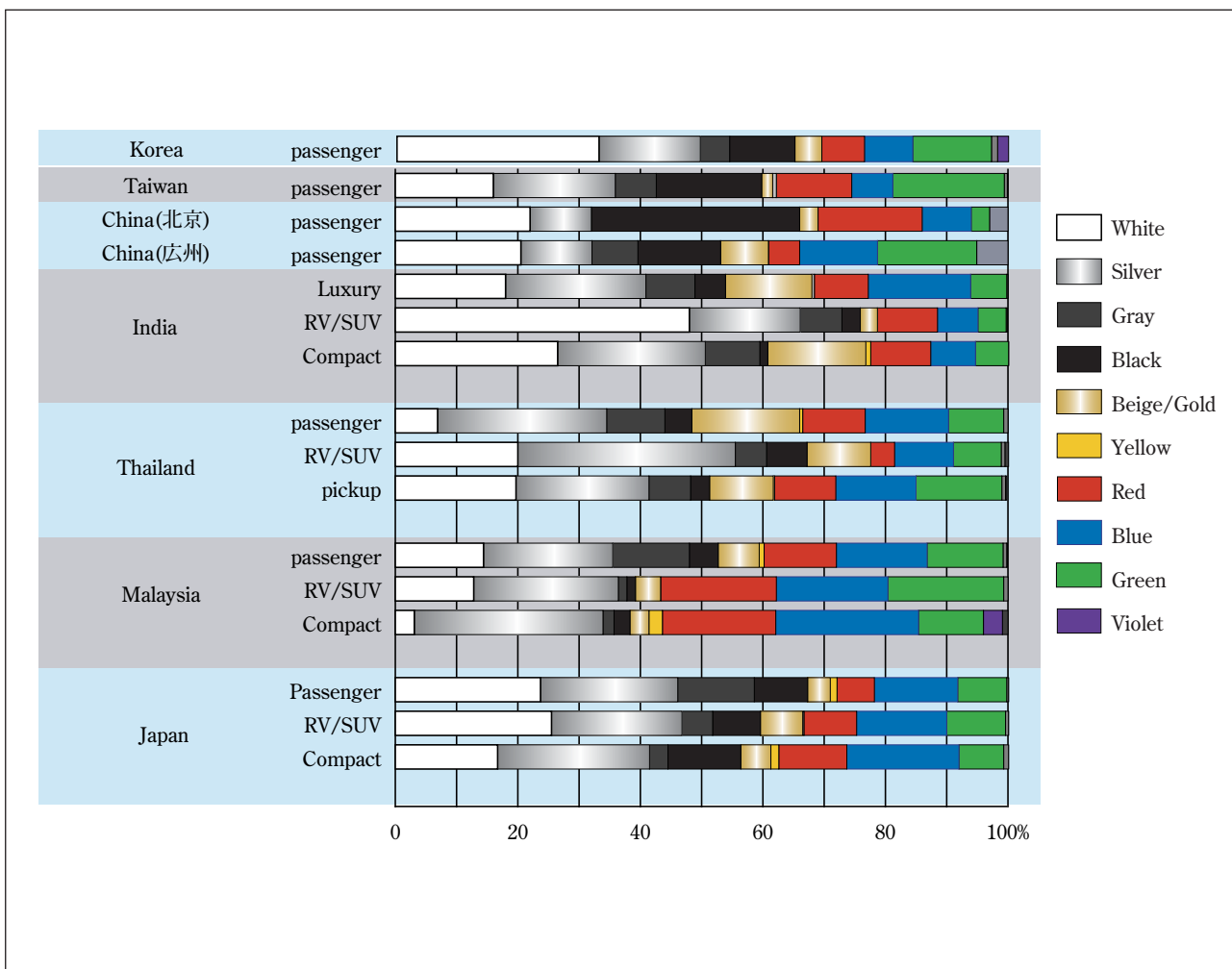


図18 アジア諸国の自動車カラーポピュラリティ比較